



Strengthening Our presence in Vietnam



Vietnam



ベトナムの経済成長に伴う、
資源・エネルギー・
インフラ需要を捉える

成長を続けるベトナムに早くから進出

ベトナムはアジアの国々の中でも確実に成長を遂げている国であり、加えて海運需要もますます高まることが期待される、当社にとって戦略的に重要な地域です。

ベトナムではエネルギー・電力需要が急速に伸びており、現在は石炭火力発電プロジェクトによる電力炭の輸入などにより当社の参入機会がありますが、将来的にはLNGの輸入需要も高まること



商船三井グループベトナム 国代表 古川 泰史

期待されます。また、ベトナムは現在、原油を輸出していますが、精製施設の建設が進んでおり、軌道に乗ればプロダクト船による製品輸出や原油輸入の可能性もあります。モータリゼーションの余地も大きく、完成車輸入も今後は確実に伸びていきます。既に当社はベトナムにおいて、コンテナ船サービス、ターミナル事業、曳船事業に加え、自動車船による完成車輸入や木材チップ船による製紙原料輸出、商船三井近海による鋼材輸送を手掛けていますが、今後も経済の発展に伴って当社の「総合力」を活かした事業拡大が大いに期待できます。

当社とベトナムとの関係は120年前の1896年に日本向けにサイゴン米を輸送したことにさかのぼります。2006年に日本船社として初めて100%出資の現地法人を設立し、また有力なパートナーと組むことで、ターミナル事業や曳船事業に進出するなど、早い段階から海運に加えて周辺事業を展開してきました。

海運事業との相乗効果を発揮するターミナル事業

ベトナムの南部に位置するカイメップ港で、当社は現地パートナーとコンテナターミナルを運営しています。大型船が入港可能な効率的ターミナルとして顧客に貢献してきており、カンボジアから河川バージを利用してカイメップへ輸送するサー



カイメップ港ターミナル

ビスも定着しています。今後は中継港としての活用も見込まれ、当社コンテナ船サービスの寄港が更に増えて、海運事業との相乗効果も高まっていくものと考えられます。

また、2018年の開業に向け開発を進めているラックフェン港コンテナターミナルも、北部で大型船が寄港できる唯一の港となります。日系企業が続々と北部に進出してきており、今後輸出基地としてさらに重要性を増してくることが期待されます。



カイメップ港コンテナターミナルでコンテナ船の出入港を補助するタグボート

ベトナムでの存在感向上に寄与するロジスティクスと不動産事業

商船三井ロジスティクスのベトナム法人MOLロジスティクス(ベトナム)は、ベトナムでの国内物流のサービス強化と拡大に注力しています。ホーチミンに本社を置き、海上・航空輸送、国内陸上輸送、倉庫物流、輸入通関など幅広いサービスを展開しており、ハノイ、ハイフォンと拠点を増やし、現在8拠点を構



サイゴン・タワー

えています。2013年には、隣国のカンボジアにも現地法人を開設し、国境をまたぐ物流ニーズにも対応を進め、商船三井の東南アジアでの存在感向上に寄与しています。

また、不動産事業のダイビルは、2012年にホーチミンで「サイゴン・タワー」を、2014年にハノイで「コーナーストーン・ビルディング」を取得し、所有から管理までを一括して行うビジネスモデルにより、当社グループの安定的な利益を支えています。

今後もグループ内の協力を一層進め、商船三井の「総合力」を駆使して、ベトナムの経済成長に貢献していきます。